

「立ち上がる農山漁村 ～新たな力～」選定団体概要書

1. 「新たな力」団体等名称

作新学院大学総合政策学部

2. 協働している取組の名称及び応募団体名

取組の名称：新やすらぎ空間「かぐや姫の郷」

応募団体名：竹原郷づくり協議会（事例 No.18）

3. 協働している取組の概要

栃木県茂木町竹原地区では、少子高齢化や過疎化が進む地域を活性化することを目的に、平成 15 年 4 月に「竹原郷づくり協議会」を設立し、地域観光スポットの掘り起こしとして、竹林に囲まれ雨の降ったときにしか見ることのできない「坪淵の滝」周辺の遊歩道や防護策の整備を集落全員で行った。

平成 16 年からは、棚田と竹林保全のためのオーナー制度をスタートし、稲作体験、ホタル鑑賞会、たけのこ掘り、竹林間伐などの体験メニューを提供することで農村女性や高齢者の知識とノウハウを活用する新たな場を創出すると同時に、現在では登録オーナー数も 22 組に増え、都市との活発な交流は地域の活性化に大きく寄与している。

また、古くからの地域資源である竹を活用し、乾燥たけのこ、竹炭、門松などの加工品づくりにも取り組み、竹灯籠を愛知万博に出展するなど各種イベントへも積極的に参加している。

平成 18 年には、竹林の中の「坪淵の滝」での長さ 70 m の流しそうめん、夜間の竹灯籠によるライトアップなど地元の竹を活かしたイベントの開催により、多くの観光客を集めている。

なお、継続的な里山保全活動、農村景観づくりが認められ、平成 17 年度には農林水産省「美の郷づくりコンクール」審査員特別賞を受賞した。

4. 取組への協力のポイント

平成 15 年、竹原地区での村おこしの機運の高まりを受け、栃木県の「ふれあいの郷づくり事業」により、作新学院大学地域発展学部（活動当時：現総合政策学部）橋立達夫教授が中心となり「竹原かぐや姫の郷づくり」構想を取りまとめた

地域活性化策の専門的知見から、地域の問題と活用可能な資源、可能な取組などの分析を行ったこの構想により、現在の活動主体であり、竹原地区全戸加入により運営される「竹原郷づくり協議会」が発足し、それまで山林を浸食する厄介者であった「竹」を地域資源とみなし、地域活性化の中心とする現在の活動の基本方針となった。

また、それまでの「竹原に住む人だけで地区を変えていく」という自前型の考え方の転換を図り、外部との交流によって竹原地区外の人材を村おこしのスタッフに取り込むという新たな視点を地域に与えた。「農と集落の環境保全」を交流の素材として活用し、むらおこしの過程から都市をはじめとする外部の人間に参加させることで、参加者の愛着と思い入れにつながるこの方法は、高齢化が進む竹原地区で地域住民達が無理のない継続的な活動を行うための大きなヒントとなった。